



第2号では、4年生国語科「ごんぎつね」の学習についてお知らせします。

◎学習を通して、こんな子供を育てたいと考えています

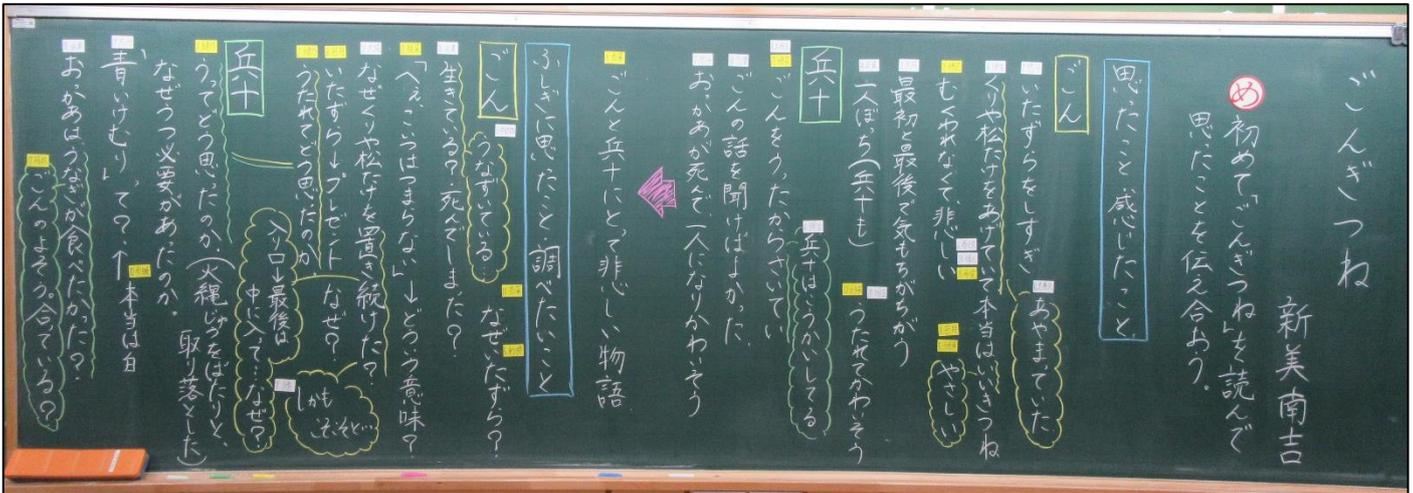
- ・「国語が楽しい」「もっと本を読みたい」「言葉はおもしろい」と思える子供
- ・本文の言葉を根拠に、登場人物の気持ちを読み取ることができる子供
- ・分かったことや不思議に思ったことを積極的に伝え合うことで、学びを深めていく子供



◎授業の様子

(1)初めて「ごんぎつね」を読んで、思ったことや調べたいことを伝え合う

教材との出会いを大切にします。初発の感想を伝え合い、捉えを共有したり、疑問に感じているところを明確にしたりすることで、子供たちが「もっと知りたい！解決したい！」という意識をもった問題を導き出すことができます。



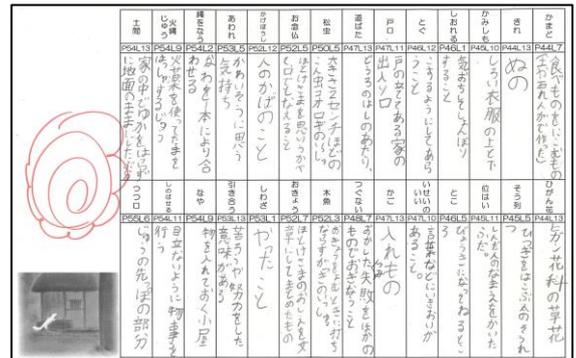
【4年生国語「ごんぎつね」 初発の感想交流 板書】

(2)意味調べ

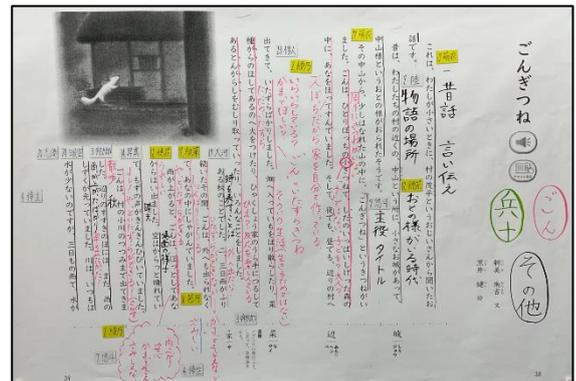
物語教材の学習では、言葉の意味調べが重要となります。意味調べは、子供たちの語彙力を高めることはもちろん、物語の情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを読み取ったりする際のヒントになります。

(3)探究ノート「ごんと兵十の足跡」を活用して、言葉を根拠に登場人物の気持ちを読み取る

それぞれの場面におけるごんと兵十の心情や、他の登場人物との関係を、探究ノート「ごんと兵十の足跡」としてひとり調べでまとめる場を設定します。「ごんと兵十の足跡」には物語全文が載っていて、行間に登場人物の気持ちや情景を書き込むことができます。ひとり調べをした後に学級全体で共有することで、子供たちは大事な言葉に気付き、場面をつなぎあわせながら、情報を確実に読み取り、言葉を根拠に自らの思いや考えをもつことができると考えます。



【子供が書いた「意味調べプリント」の一部】



【学級全体で交流して完成した「ごんと兵十の足跡①」】